

## 吉田財団設立40周年記念事業

## 令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会  
理事長 山倉修一 殿

学校名	福岡県立柳河特別支援学校
学校長名	浅倉 真樹子
報告者	竹森 良子
寄贈品	1. どこでも畳(8枚入り) 2. ラッサルバナナクッション、ラッサルバナナクッションカバー
《振り返り》	
教育的課題	1. 視覚障がい児が、指や足で触れる感覚を養い、場所や方向を認識する中で、素材や段差がその指標となる。 2. 肢体不自由児が、仰向きや側臥位の際、側弯や緊張から体の部位に隙間ができ、硬直や緊張につながっている。身体の力を抜き、活動するよう支援する。
教材活用の狙い	1. 指や足で触れて素材の違いや段差等がわかるものを環境として設定し、主体的に自ら一人で移動することができるようになることを狙う。 2. 身体の浮いた部位に馴染み、支えることができる。仰向き、側臥位の姿勢保持だけでなく、吊り下げ遊具等の感覚運動をする際にも活用する。
目的達成の為の工夫	1. 畳を足で認識し、位置を理解し、自らが意欲的に学ぶ姿につなげる。 2. 新しいクッションやカバーが増えたことで、活用できる人数が増える。
《教材活用の効果・成果》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	1. 以前はポリウレタン素材のセラピーマットを敷いていたが、畳に変わり、自然素材の心地よさを感じながら、絵本を読んだり、休憩時間にゴロンと横になったりしている。畳の心地よさを肌で感じている姿が随所にみられる。 2. これまで学校にあったラッサルクッションを使用する中で、利便性を実感していた。数や新しいカバーが増えたことで使用することができる生徒が増えた。
対象者・利用頻度	1. 毎日活用している。 2. 毎日活用している。
目的達成状況	1. 大変満足している。 2. 大変満足している。
教育的効果についての所見等	畳の香りが教室だけでなく廊下にも広がり、視覚障がいの生徒にとって感覚を育むよい機会となった。クッションの数が増え、教師も喜ぶ姿が見られた。

## 活用状況の写真等(当日の様子など)



視覚障がい教育部門幼稚部年少(3歳児)が畳の所で、玩具で遊んだり、点字の絵本を読んだりしています。



肢体不自由教育部門の児童生徒が、トランポリンや大型遊具に乗る際に、ラッサルクッションを使用し、身体を支え活動ができるようにしています。



## 今後の活用見通し・課題

- ・視覚障がい教育部門の幼児児童生徒が集まる際にも畳マットを活用している。畳に集う姿は、とても温かく、会話も弾んでいる。今後も活用をしていく。
- ・これまでも活用度が高いクッションであり、カバーが新しくなり、数が増えたことは本当にうれしい限りである。